

(公社) 日本地すべり学会 第 52 回研究発表会及び現地見学会
国際シンポジウム「Cold Region Landslides」開催案内

国際シンポジウム「Cold Region Landslides」世話人
丸井英明（新潟大学）

記

2013 年 8 月 29 日－30 日に島根県において開催される第 52 回研究発表会に際して、「Cold Region Landslides」をテーマとする国際セッションを開催致します。

我が国の気象条件の下では、豪雨と共に融雪が地すべりの誘因として重要であることは周知の与件であります。昨年 3 月 7 日には新潟県上越市において規模の大きい融雪地すべりである「国川地すべり」が発生し、住宅多数に被害をもたらしました。一方、海外に目を向けるならば、中国東北地区やロシア・シベリア地区等では永久凍土地域における地すべりの発生が注目されます。寒冷地域における地すべりは、地すべり研究並びに地すべり災害の軽減の観点から重要な研究対象であると考えられます。

国際斜面災害研究機構（ICL）の活動の一環として、2012 年 7 月 23 日から 23 日にかけて中国哈爾濱市において「Cold Region Landslides Network」が設立され、最初のシンポジウムが開催されました。この Network は中国東北林業大学の Wei Shan 教授の提唱に基づき組織されたもので、同教授を代表とし、ロシア水利プロジェクト研究所の Alexander Strom 博士並びに新潟大学丸井が副代表として運営に協力しております。

同 Network は毎年一度会議及びシンポジウムを開催することを予定しておりますが、2013 年度は設立 50 周年を迎える日本地すべり学会の松江大会に合わせて、研究発表会の特別セッションとして国際シンポジウムを開催したいと考えております。

Wei Shan 教授をはじめとし、広く海外の研究者にも参加を呼びかけたいと考えております。国内からも、日本海側の多雪地域や北海道など「寒冷地域の地すべり」を対象とした調査・研究に携わられておられる方々の参加をお願い致します。

*本国際シンポジウムは、講演集執筆・発表・質疑応答すべて英語にて行われます。